

人と地球を大切に作る心と行動

— “森林生態系保全プロジェクト”

株リコー 社会環境本部
環境コミュニケーション推進室
室長 益子晴光

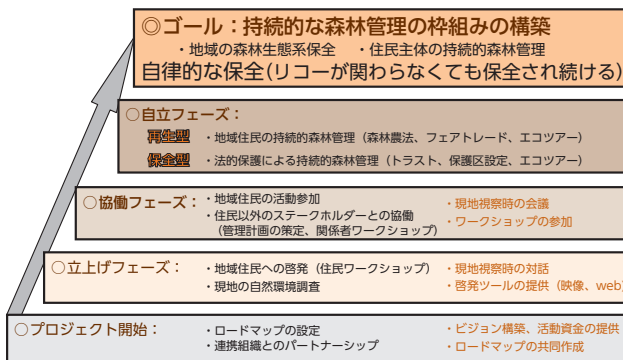
リコーグループでは、社会とのコミュニケーションを図り、より豊かな社会の創造に役立つことを社会貢献活動の理念とし、「地球環境保全」、「青少年の健全育成」を2つの柱に据えた社会貢献活動を推進している。本稿では、「地球環境保全：生物多様性保全」の中から、“森林生態系保全プロジェクト”を中心に紹介したい。

“森”と“森の中の生物”を守る

生物多様性保全活動の目的は、地球再生能力の維持、回復だが、具体的には①森林生態系保全プロジェクト、②環境行動計画、③環境ボランティアリーダー養成計画（国内）、④環を拡げる活動（国内中心）の4つがあり、世界のリコーグループで年に1～2回、生物多様性に貢献する活動を推進している。

現在、地球の森はどんどん減少し、400～500年後には森が無くなってしまおうと言われている。そのような危機的状況に至らない方策として始めた活動が森林生態系保全プロジェクト(下図)である。

持続可能な保全を目指したプロジェクトの推進



黒字は主な活動方法、赤字はリコーの関わり

09年まで8つのプロジェクト、①シベリア：北限のトラ生息域タイガ保全 ②ガーナ：熱帯雨林回復 ③雲南省：三江併流世界遺産の生物多様性保全 ④ボルネオ：熱帯雨林・オランウータン生息域回復 ⑤フィリピン：熱帯雨林回復 ⑥アマゾン：大西洋沿岸熱帯林復元 ⑦沖縄：やんばる森林保全 ⑧長野：黒姫アファンの森保全 を推進してきたが、④と⑤は活動が継続される目鼻がついたことで終了し、現在は6つのプロジェクトを推進している。

プロジェクトは森を守ることを主目的としている。一度伐採されると、植林しても森の生き物はすでにいない。そうなる前に、残す価値のある森を守るという考え方である。持続的な森林保全の枠組みを構築し、私たちが働きかけることにより保全が期待できる天然の森を守る。そのことが地域社会の発展につながり、成功モデルになって周りに広がるような活動を進めたいと考えている。

ガーナ：森林農法で大きな成果

ガーナは世界2位のカカオ生産国で、多くの場合は熱帯雨林を切り拓いて生産地を確保する。畑作的にカカオを作れば木が密集し、養分を取り続けて土地がやせてしまうという問題があり、密集すると病気や害虫が周囲の木に広がりやすいという問題もある。そうなると、また違う森を切り拓かざるを得なくなる。多くの集落で何年も続けると、広い地域にわたり熱帯雨林が破壊されてしまう。それを止めることが取り組みの狙いである。



森林農法の
カカオの木

飛躍的に収穫量が
増えたカカオ

そこで、パートナーのアメリカのNGO コンサベーション・インターナショナル (CI) の協力を得て活動を始めた。具体的な活動はCI ガーナを支援することだが、将来的に持続可能性のあるものにするためにどうすべきかなどCI本部と協議しながら進めている、

前述の問題点解決の方策として、「アグロフォレストリー (森林農法)」を進めている。この農法では、森の中の外周部分に日陰でも収穫できるような品種を選んでカカオを植える。森の中では養分を他の樹木が存在することにより得られ、土地がやせないため継続して収穫できる。いろんな生物がいて病気や害虫が発生しにくいという利点もある。場所によっては、面積当たり約8倍の収穫になったという報告もある。

このように、収穫が増え住民がハッピーになり森も伐採されないという成果が上がったことから、参加コミュニティが増え地域全体の活動になろうとしている。活動が定着するよう、森の役割や森の中の動植物の連鎖など、森林保全や生物多様性の重要性を住民の方に学んでもらう啓発活動も進めている。

世界：外来種駆除し生態系を守る

生物多様性保全活動は世界のリコーグループで進めているが、活動内容は各地で自主的に進める。たとえば、南米ではウルグアイで植林、マレーシ

アではマングローブの再生、上海では上海市とリコーチャイナとの共催で一般市民への環境保全普及活動を実施し、社長自ら生態系保全を市民に呼び掛けるなど、さまざまな活動を進めている。

従来は植林型が多かったが、生態系のバランスを崩すという観点から外来種の駆除活動という切り口で進めるところも増えてきた。

たとえばオランダの欧州販社統括会社は、国立公園内にある外来種の桜の木が繁茂し他の動植物の生息を脅かしていることから、除去作業に社員が参加している。アメリカの生産会社は、オークの森林帯とそこに生息する動植物生態系を守るため、社員と家族が参加して外来種のアザミの除去作業をおこなった。中国・華南地域でもリコーグループの生・販会社が共同して、総勢140人の社員が植物の殺し屋と言われる外来種のみカンア・ミニクランサの駆除活動を森林公園で実施するなど、活動は世界に広がりつつある。



外来種の駆除活動
⇐ (オランダ)
(中国) ⇓



WWF発表の「生きている地球指数」(熱帯雨林や海洋生物など、いろんな地域の生物の種類と個体数を指数化)は、70年を100%として05年には70%と大きく減少している。「地球の元気」はいろんな生物の営みが支えているが、それが減少すれば、それだけ元気が無くなっているということになる。地球の元気を取り戻すために、リコーはこれからも生物多様性保全活動を積極的に進めていきたい。

◆リコーグループの社会貢献活動

http://www.ricoh.co.jp/csr/activity/soc_harmony/index.html

◆森林生態系保全プロジェクト

<http://www.ricoh.co.jp/ecology/biodiversity/02.html>